

## LCC・6月例会 議事録

開催日 平成23年6月20日(月) 18時30分より  
場所 同志社大学大阪サテライトキャンパス  
担当 法人委員会  
司会 事務局長 榎本 時一  
参加者 55名(うち講師2名、学生2名)

### <第一部>

#### 1. はじめに 法人委員会委員長 北出 至

本日は大変ご多用の中、この様に多くの方にお越し頂き、誠にありがとうございます。

今回の準備段階で、リエゾンオフィスの藤井課長、大神さんのお二人には、いろいろお世話を頂きお礼申し上げます。

また、吉田前会長、花岡相談役をはじめ、執行部、事務局、各委員会の幹部や会員の皆様、そして、何人かの外部の方々にもご協力、ご出席を賜り感謝致します。

さて、今回は今期最初の例会です。前半の講演では、近畿経済産業局の前田浩文様に産学官連携について広い視野からお話して頂きます。普段聞きなれないオープン・イノベーションや先端イノベーション、そしてTLOという言葉について分かりやすく語って頂きます。今後のLCC活動のため、特に企業が産学官連携に関してどのように考えていくかをお話の中からヒントを得たいと思います。

また、後半の講演では法人委員会の藤原正巳氏に第13代日銀総裁の深井英五についてお話して頂きます。お話頂くのは、前回のMiss Mary Florence Dentonに続き3回目です。大変たのしみです。

それでは、お二人のお話から、色々学んで頂ければと思います。

#### 2. 講演「産学官連携の取組について」

近畿経済産業局 産学官連携推進室 室長補佐 前田 浩文 殿

本日はこのような機会をありがとうございます。今回は少し広い視点から、産学官連携の取組についてお話ししたいと思います。

##### (1) 我が国経済と産業構造

##### ・我が国の現状①(研究開発フェーズは強い我が国)

世界の中での日本の経済的な地位の低下

##### (例) 世界ランキングにおけるGDPのランクダウン

少子高齢化・人口減少の進行

→日本の発展のためには、研究+αの付加価値をつけなければならないため、研究に力を入れなければいけない。研究に投資をしている国である。

## ・我が国の現状②（でも製品で勝てない・儲けが少ない）

日本の“知”を活かし、特許の数が多い。

しかし、世界市場の伸びに伴い、日本のシェアが急速に縮小している。

→特定企業や特定商品の問題ではなく、日本の企業ビジネスモデルの問題である。

→つまり、技術の高度化に伴う「自前主義」の限界が来ている。

→オープン・イノベーションが最近流行っている。

## ・オープン・イノベーションとは？

複数の企業や大学・研究所が得意分野を持ち寄って、競争力のあるものを“共創”すること。現代の研究開発戦略においては、競争と協調の境界線を最適に設定し、共創・協業を効果的に取り入れることで、イノベーション効率の向上を図っている。

（例）米・Apple社の携帯型音楽プレーヤー（iPodなど）

## ・オープン・イノベーションへの期待

オープン・イノベーションを実現する上では、国内外から人・資金・情報が集積し、研究開発、技術戦略策定や人材育成を行う「研究開発拠点」の形成が極めて重要。

→特に大学は、産学官が集い活動を行える場としての役割を期待されている。

民主党政権：「新成長戦略」

経済産業省：「産業構造ビジョン2010」

## (2) 産学官連携の現状

### ・産学官の研究リソースについて

研究費は「産」が多く持っているが、研究者は「学」にも多い。

→「学」は研究費に比べて、研究者が多い。企業から大学へお金を回して、研究者を活用していくことが大切。

→しかし、国別の民間から大学へ流れている研究費のランキングで日本は少ない。

### ・大学における産学連携の目的

主に、研究費の確保・中小企業を提携することによる地域貢献など。

### ・企業が感じる産学連携のメリット

高水準の研究内容を取り入れられる・大学の研究施設を使える・人脈・相談相手が出来ると感じる。

### ・大学等からの技術移転の日米比較

日本の良いところ

→研究費が安い・契約に柔軟性がある。

日本の弱さ

→特許出願件数に遜色はあまりないが、実施料収入が極端に少ない。

## (3) 産学官連携促進のための施策

### ・日本の産学連携は、今は第四世代

文理融合や地域振興など多様な産学連携が求められる。

→中身が問われる時代へ。

・産学官連携促進のための施策が整えられる

1998（平成10）年 「大学等技術移転促進法」（TLO法）制定

→産学官連携のスタートライン。

2006（平成18）年 「教育基本法」の改正

→大学の役割が、教育（知の継承）・研究（知の創造）・社会貢献（知の活用）へ。

・技術移転機関（略称：TLO）について

TLOは、大学と企業をつなげるための機関である。

→大学の研究成果を見つけて来て、それを特許にして収益を得る。

・技術研究組合制度

企業と大学と一緒に研究する時に、大学に経済産業省から支援

・先端イノベーション拠点設備事業

大学に、産学連携拠点を作る。

・大学における産学連携の取組事例

同志社大学は、文理融合型の産学連携で際立っている。

(4) 関西経済と産学官連携の取組

・関西の産業構造と規模

関西は、約17%の経済規模

→大学の数は、約2割。私学が多いので、学生も多い。

関西は、各産業がバランスよく存在している。

・「産学官連携推進実務会議」

・「はじめての産学連携」産学連携ガイドブック

→ウェブサイトで確認出来る。

・産学連携の課題

日本の産学連携は、今曲がり角にある。

→10年やってきたが、今が正念場である。

→LCCには、大学を可能な限りサポートすることを期待する。

**3. LCC新島塾「第13代日本銀行総裁 深井英五」 法人委員会委員 藤原 正巳 氏  
はじめに**

本日は、我々の先輩で日本銀行の名総裁である深井英五についてお話しいたします。

まずその前に、皆さんに2つ質問があります。皆さんは、以前から深井英五についてご存知でしたか？そして、同志社のカレッジソングをせめて一番だけでも歌うことが出来ますか？恐らく多くの人が深井英五についてはご存知なかったように思いますし、現役学生やOBの大半がカレッジソングを歌えないという悲しい現状があります。現在同志社大学では、選択科目として同志社史を設置していますが、私はこれを少なくとも必修科目にし、併せてカレッジソングもせめて一番までは歌えるようにして欲しいとも思っています。母校について学び、素晴らしい人物が私たちの先輩の中にいることを誇りに思うべきです。

## 深井英五の生い立ちと日銀総裁としての業績

### 1) 金融官僚としての業績

深井英五は、1871（明治4）年に群馬県の旧高橋藩士の家に生まれ、貧しい幼少期を過ごしますが、奨学金を得て1885（明治19）年に15歳で同志社に入学。英学校だったため、5年後に20歳で卒業します。成績はよく、特に英語が群を抜いていたそうです。その後、大学の8年先輩である徳富蘇峰の新聞社に勤めます。その後、徳富の紹介で大蔵大臣の松方正義の秘書官となり、次は松方の紹介で調査役として日本銀行に入ります。彼の経歴は転々としたものですが、優秀だったため色んな方の紹介を受けて人生が成り立っています。そして、1935（昭和10）年に第13代日本銀行総裁に就任しました。それまでは総裁になるのは、東大をはじめ国立大出身者ばかりだったのですが、深井は私学の出としては慶応の山本達雄に次ぐ存在です。

深井は、金本位制から管理通貨制へと移り変わる日本の金融恐慌時代において、この流れを中心的に支え、またギリギリのところまで日本経済を救った立役者として知られています。反動恐慌で倒産企業が続出し、全国の銀行で取り付け騒ぎが起こる中で、深井は迅速に動きました。日本銀行が緊急貸し出しを行ったのです。お金が足りないのに、汚れたお金も使い、印刷が間に合わないのを表だけ刷った200円札を1200万枚発行し、モラトリアムという支払い猶予令も出し、民衆を安心させたのです。日本の金融史において深井英五について触れられない研究はないと言っても過言ではありません。

### 2) 思想家としての業績

深井英五は、日銀総裁としてめざましい活躍をしましたが、それと同時に大変な思想家でもありました。日本の学界で非常に評判を呼び、当時世界最高と歌われた **The Economic Journal** から「通貨調節論」を出しました。これは、彼の代表作です。国際金融の理論と実際においては、彼に適う者はいないとまで言われ、当時の世界の中心であるイギリス・**Bank of England** のニューメイヤー理事にも「近年会った外国人の中では最上」と言わしめました。銀行家・理論家・思想家として、国内外で大変な評判を得ていたのです。

### 深井英五の人格・思想形成に影響を与えた人々

深井英五について語る時に、忘れてはならない人が二人います。新島襄と徳富蘇峰です。新島は、彼が19歳の時に亡くなるので、青年期の彼に最も影響を与えたのは徳富であると言えるでしょう。しかし、新島は彼に素晴らしい教えを与えました。

彼が新島から教わったことは、自伝「回顧七十年」にあります。彼の人生観は、実践的人生観というものですが、これは新島から教えられたものでした。それは、「ものごとが発生した時、何か判断する時、利害得失を冷静に考えて、科学的・合理的に最もベストなものを選択する。そして、それを一生懸命実行する」というものです。

一方で、徳富は深井を物心両面で支えました。自分の新聞社で9年もの間職を与え、色んな経験をさせ、1896（明治29）年には、世界視察旅行を行い、彼を通訳・書生として連れて行き、世界を見るチャンスを与えました。情に厚い徳富は、彼の父親的存在でもあったのです。彼らとの出会いをきっかけにして、深井は日銀総裁として偉大な足跡を

残したと言ってもよいでしょう。

#### **明治期の先覚者たちの高い英語力の秘密**

話はかわりますが、明治期中で、何故新渡戸稲造や深井英五のような高い英語力が評価される人物が出てきたのでしょうか。その秘密は会話力にあると思いきや考えた結果、私はあるひとつの推論に達しました。

それは、彼らは英語を正しく発音していたからだ、というものです。英語を伝える時に一番大切なのは、文法や適切な表現ではなく発音です。何故なら、英語は発音数の豊かさを誇る言語であり、それぞれの言葉にそれぞれの発音があるからです。それに比べ、日本語は発音数が少なく、「ん」や「っ」といった日本語特有の発音もあります。これによって、日本人の英語学習が拒まれている可能性はあります。

しかし、日本人にも英語を習得する方法があります。どうも新渡戸や深井は、その方法を実践していたようです。その方法とは、「通じるカタカナ英語を使う」ことです。割り当てる言葉を上手くすれば、通じるのです。英語が下手ということは、要は発音が下手ということなのです。しかし、語学習得の9歳の壁と超えると、発音を直すのも簡単ではありません。開き直って、面白いルールを取り入れるとよいです。詳しいことは、講談社・ブルーバックスから出ている「怖いくらい通じるカタカナ英語の法則」(池谷裕二著)をご参照下さい。歴史の勉強は大切です。ビスマルクの言葉に、「愚者は体験に学び、賢者は歴史に学ぶ」というものがあります。偉大な人々の生き様を、日々の行動に活かしましょう。

#### **4. 連絡諸事項**

**LCC事務局長 榎本 時一**

##### **(1) 東日本大震災チャリティイベントのご案内**

**平松市長後援会「元気ネット大阪」事務局長 馬出 昭浩 殿**

市民協働と地域社会の絆をテーマに、様々な方に思いを語って頂くイベントです。お時間許される方は、是非ご来場下さい。

**日時** 平成23年7月2日(土) 開場18:15～ 開始18:30～

**会場** 大阪商工会議所7階会議ホール

**参加費** 社会人3,000円 学生1,000円

##### **(2) HLC東大阪リエゾン倶楽部設立3周年記念講演会のご案内**

**HLC事務局長 別府 守三 殿**

HLCが丁度3周年を迎えましたので、ご興味ある方は是非ご参加下さい。出欠はFAXでお願いいたします。

**日時** 平成23年7月11日(月) 14:00～16:30

**会場** 東大阪クリエーション・コア南館3F クリエーターズプラザ

※16:45～17:45に、講師の方も交えての交流会/名刺交換会(軽食付)を行います。ご参加の方は、当日3,000円お支払い下さい。

### (3) 初参加の方のご紹介

- ・北出会長のご知人5名様
- ・三輪 記子 様 (光法律事務所、同志社中高卒)
- ・中村 真也 様 (パナソニック 電工(株)、1983年商学部卒)

### (4) 校友会大阪支部総会のご案内

校友会大阪支部副支部長 播島 幹長 殿

日時 平成23年7月6日(水)

会場 ウェスティンホテル大阪

### (5) 学生の方の自己紹介

- ・小野 貴 さん 商学部3回生
- ・牲川 明希 さん 政策学部4回生

### <第二部>

二次会が、近くの会場で行われましたが、31名の参加を頂き、非常に盛り上がった会となりました。お忙しい中参加して頂いた方々、ありがとうございました。

次回は、7月6日(水)の校友会大阪支部総会に合流予定です。

以上